

動脈硬化 予防法開発へ

弘大とプリメディカ 共同研究講座

動脈硬化の予防法の開発などを目指す講座の開設式に臨む福田学長（左から2人目）、富永社長（同3人目）ら



弘前大学と予防医療に特化した検査サービスなどを提供する会社「プリメディカ」（本社東京）が6日、

共同研究講座「予防医学推進学講座」の開設式を同大で行った。同大が岩木健康増進プロジェクト（岩木健診）で集めている膨大なデータを活用し、脳梗塞や心筋梗塞を引き起こす動脈硬

化の予防法の開発などを目指す。

プリメディカは、がんなどの重大な病気のリスクを調べる検査サービスを開発、販売している会社。創業12年目。代表的なサービスとして、動脈硬化の進み具合や将来的な脳梗塞、心筋梗塞の発症リスクを血液から調べる検査を人間ドック

クなどで提供している。

共同研究講座では、岩木健診でこの検査のデータを集め、ほかの項目との関連性などを解析。検査の正確性を補強し、新たな発症予防法の開発に向け研究を進める。講座は4月1日付けで同大内に開設。期間は3年間。

開設式に先立ち、プリメディカの富永社長は市内で実施中の岩木健診を見学。富永社長は「これほど活気のある健診は見たことがない。一般的な項目に加えていろいろな会社の独自の項目との関連性を研究できるのは大きな魅力」と述べた。同大の福田眞作学長は「弘大COI（センター）・オブ・イノベーション」の源流は疾病の予防。そのど真ん中の研究を担当してもらえ。どんな成果が生まれるか今からわくわくしている」と話した。

（伊藤ほなみ）